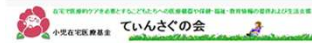


ていんさぐの会 ボランティア養成講座

ゆくいこども診療所
所長 宮城大雅



1

今日のお話

- ・ 摂食嚥下に関して
- ・ 経管栄養に関して



2

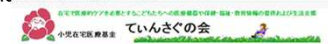
摂食嚥下障害について



3

私たちにとって口から食べる事とは？？

- ・ 生命維持するためのもの！！
- ・・・本当にそれだけ？？
- 食べる事の意義としては、
- ①消化機能を維持する
- ②生きがい
- ③介助者とのコミュニケーションの手段
- ④関連する器官への発達を促す
- ⑤自分でご飯を食べる事は自立への一歩

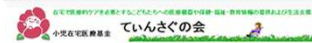


4

こどもへの食事支援は発達支援にもなる

食を支援することは、

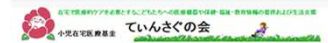
- ・ 乳幼児期における望ましい食生活の定着及び 食を通じた人間性の形成・家族関係づくりによる心身の健全育成を図るための発達支援です。
- ・ 子供が豊かな人間性を育み、生きる力を身につけていくために、また、子供の健康支援のために食事することは重要と位置付けられています。



5

口から食べることができなくなる原因は？

- ・ 内部要因と外部要因があります。
- 内部要因として
- ①咽頭喉頭機能低下 ②消化管通過障害 ③呼吸障害
- ④口腔形態異常 ⑤筋緊張亢進 ⑥口腔内感受性過敏など様々な要因があります。
- 外部要因として
- ①不適切な姿勢 ②不適切な介助方法 があります。

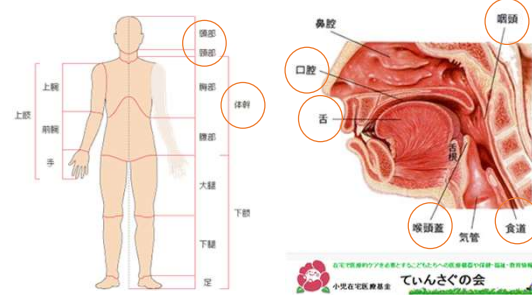


6

どうやって、ごはんをこの子たちにあげたらよいの
だろう。。。

7

摂食嚥下に関連する器官はどこだろう？



8

実際、飲み込んでみよう。姿勢編

上体がそっくり返っている



背中が丸くなっている

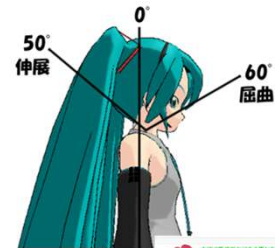


左右どちらかに傾いている



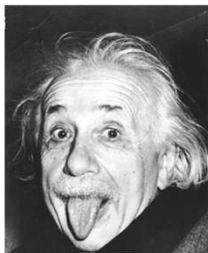
9

実際、飲み込んでみよう。頭の位置



10

実際、飲み込んでみよう。口腔内編



11

正しい姿勢、頭の位置、口腔内の機能が大切！！

・正しい姿勢、頭の位置



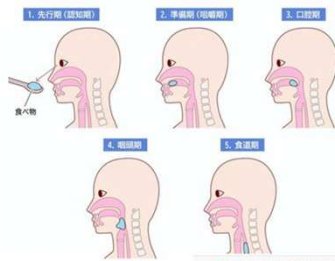
嚥下機能障害が重度の場合の
頸部と体幹の角度

新居医療的ケア
研修テキストより



12

正しい姿勢、頭の位置、口腔内の機能が大切！！



小児在宅医療推進 小児在宅医療推進 小児在宅医療推進

13

もうひとつ大切なもの！ 食事の形態！

- ・ 食事の形態は口腔内機能がどのような状態かで変更する必要がある。



小児在宅医療推進 小児在宅医療推進 小児在宅医療推進

14

これは何のミキサー食でしょうか？



小児在宅医療推進 小児在宅医療推進 小児在宅医療推進

15



小児在宅医療推進 小児在宅医療推進 小児在宅医療推進

16



小児在宅医療推進 小児在宅医療推進 小児在宅医療推進

17



18



19



20

食事形態と口腔期機能	
食事形態	口腔内の状態
普通食	前歯と臼歯がともにあり、良好な食塊形成が可能である。
一口大	前歯がないため食べ物をかみきれないものの、臼歯で食塊形成は可能である。
刻み	前歯と臼歯の一部がなく食べ物を粉碎できないものの、食塊形成はなんとか可能である。
ソフト	前歯と臼歯のほとんどがないものの、舌による押しつぶしは可能である。
ペースト	舌による押しつぶしができないとき、もしくは送り込みが困難で姿勢をリクライニングにして重力によって食べ物をのどに流す必要があるとき。

21

まとめ

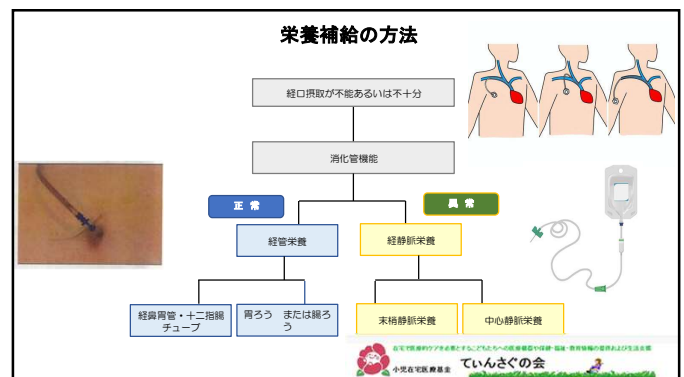
- 摂食嚥下障害には、様々な要因があり、内部要因と外部要因がある。
- 介助方法に関して、個別に合った支援が必要である。
→又吉先生からお話してもらう予定です。
- 私たちは、適切な食事支援を行う必要があり、それが子ども達の成長発達にもよい影響を与える。

でも、どうしても食べれない子がいるんです。。

22

経管栄養について

23



24

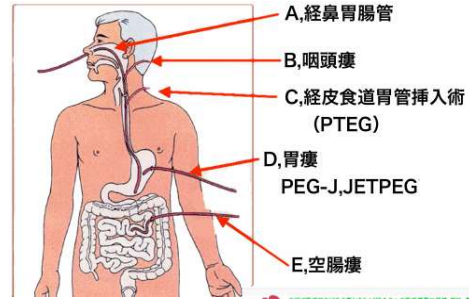
経管栄養法の利点

- 経静脈栄養に比べて、消化管の運動や消化液の分泌などの**消化管機能を促進し**、腸管免疫の賦活による**全身免疫状態の改善**にもつながるという利点がある。

- 栄養状態の改善
褥瘡(じよくそう:床ずれのこと)の予防
肺炎の予防



経管栄養法の種類



25

26

経鼻胃管と胃ろうを介する経管栄養法の利点と欠点

経鼻胃管:

- 挿入が簡便
- 挿入状態での違和感がある
- 外見上、重篤感がある
- 鼻孔から胃まで挿入が困難な利用者もいる
- 1~2週間毎交換が必要
- 管が胃ろうよりも細いので、栄養剤等が詰まりやすい
- 抜けやすく、抜けると重大な事故につながりやすい

胃ろう:

- 顔の外見がすっきりしている
- 抜けにくい
- 胃ろうボタンやチューブの交換が4~5ヶ月毎でよい
- 造設時、手術が必要
- 合併症(皮膚のトラブルや腹膜炎等):

どちらの方法も適切な栄養素、カロリーが入れば、栄養補給の方法としては、どちらが劣るという研究はなく、その時の状態によって、どちらの選択が最適かを主治医とよく相談して決める必要があります。



胃瘻

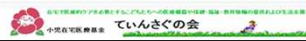
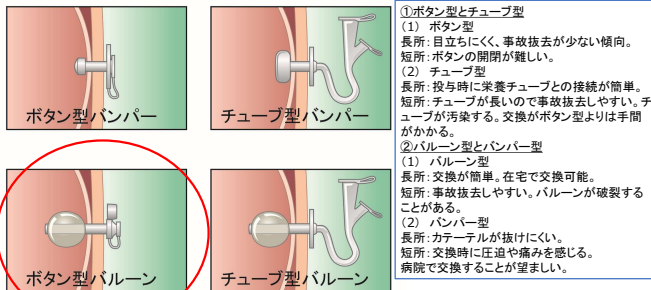
経管栄養法のひとつで、胃に瘻孔をあけて、栄養を注入する方法です。その穴の事を『胃瘻』といいます。



27

28

胃ろうカテーテルの種類



胃ろうの日常ケアと固定方法に関して

- ・瘻孔が完成してからは、感染予防⇒よりよい状態で胃ろうをキープできるように日常のケアはシフトしていきます。
- ・シフトするのは、胃ろうの手術をして大体2週間目ごろから。

- ①スキンケア 入浴などで清潔を保つ
- ②スキントラブルへの対応 固定法の工夫
- ③カテーテルトラブルへの予防・対応

事故抜去時、カテーテル閉塞時

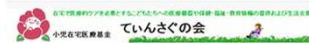


29

30

小児の胃瘻ケアの特徴： 予防的な皮膚ケアが大事！

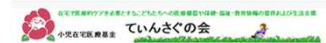
- ・ 小児は、成長に伴い体格が変化するため、年齢に伴い、胃瘻部分の圧迫具合が変化します。そのため、体重の増減や胃瘻の埋まり具合、体調の変化に応じてシャフトの長さを調整する必要があります。
- ・ また、小児は腹式呼吸や体位の変化によりシャフトが移動しやすい傾向があります。啼泣などによる腹圧の増加は漏れのリスクを高いです。
- ・ 漏れがひどくなると皮膚の炎症が起こり、更なる漏れの発生が促されます。また、胃瘻の交換が成人と比較し多いため、開口部が大きくなりやすいと言えます。皮膚のケアとしては、胃瘻開口部の広がりや防止、隙間を埋めることが重要となります。
- ・ そのため、予防的な皮膚ケア、固定法がとても重要となります。



31

固定法に関して

- ・ 基本的に傷となるための原因を除去するために固定を考えていくというのが根本としてあります。
- ・ シャフトは普段の状態では1-2cm程度は余裕があるようにします。空腹時と満腹時で腹部の膨れ具合が違うためです。
- ・ 固定に関しては、ガーゼが刺激となると考え何もつけない方法、ガーゼで固定する方法、ティッシュによるこりを作成し汚れもふけて固定できる一石二鳥の方法、他に化粧パフで固定する方法など様々あります。ティッシュや化粧パフで行うと、よごれてもすぐに交換できるため、コスト面や入手のしやすさなどからは有用といえます。

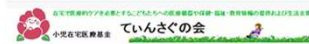
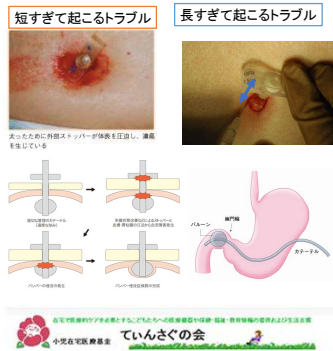


32

胃ろうで起こりえる トラブル



胃ろうによる圧迫で傷ができやすい部位を示しています。(発赤、湿疹、水疱、ひらん、潰瘍、肉芽など)
傷や肉芽にならないように注意が必要です。
シャフトが長すぎても、短すぎてもトラブルは起きてしまいます。



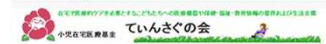
33

胃瘻を作ったら、入浴や海水浴できるの？

- ・ 一般的に瘻孔が安定してくる術後 1 週間を目めにシャワー浴を、術後 2 週間を目めに入浴を開始していきます。
- ・ 実際の入浴に関しては瘻孔部の保護は不要です。
- ・ 胃瘻からお湯がはいるかも。。。栄養剤が漏れるかも。。。などと思いますが、その心配はありません。

※胃の内圧の方が高いのでお湯ははいりませんし、栄養剤も逆流防止弁が胃瘻にちゃんとついていしますので、問題ありません。

ただ、海水浴の場合は、感染の可能性はゼロじゃないので、胃瘻周囲に傷がある場合、主治医と相談の上、傷を保護してはいるようにしましょう。



34

入浴・洗浄時のケアのポイント

- ・ チェックする項目

①胃ろうが回転するかどうか

(1回転以上回し、上下に動かしましょう。バンパーの位置も変えましょう。)

②瘻孔部の皮膚の状態

・洗浄の方法

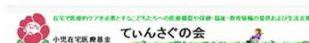
泡だてて優しく洗浄しましょう。

汚れがある場合はしっかり落としましょう。

石鹸はアルカリ性のものが多いです。しかし、皮膚は弱酸性です。

このことからできれば、弱酸性の洗浄剤を使用した方が皮膚に優しいケアができます。

入浴後はドライヤーなどで乾かさず、水気をよくとり自然乾燥しましょう。



35

経管栄養管理の注意点

■ケア時の注意点：

共通：胃ろう周囲の皮膚管理は、発赤や湿潤などの炎症所見があれば処置は不要です。場合によっては、ティッシュをボタン周囲に巻き付けておく場合も見られます。

①抜去時 → すぐ近くの医療者または、家族に声をかける。放置していると、胃瘻、腸瘻が入らなくなる可能性がある。

②移動時 → 思わずひっかけたまま抜けてしまうことがある。

引っかかっていないか確認が必要。

③注入時 → 経鼻胃管の場合、注入途中で抜去してしまうと誤嚥のリスクがあり注意。

胃瘻・腸瘻の場合もひっかけて、抜去しないように注意が必要。

④入浴時 → 入水前に周囲に発赤等の感染徴候があれば、フィルムなどで保護して入浴して下さい。

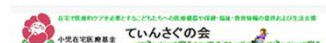
水がはいるとはほとんどないと言われており特に気にする必要はありませんが、

固定をしっかりしておくことが必要。入水後、皮膚トラブルを起きないように

しっかり洗浄する必要があります。

⑤閉塞時 → 交換しますので、家族に連絡し医療機関を受診するか、その場で交換します。

たいいては、その場で交換することが多いです。



36